

---

# 愛日記

萌愛春まによ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛日記

### 【Nコード】

N1723U

### 【作者名】

萌愛春まによ

### 【あらすじ】

高校生になる愛。

優柔不断なうえにうじうじ系の性格。

でも恋はしている乙女な年頃？

熊乃高校での愛の成長を書いています。

この高校にはたーつくさんの不思議がありまして・・・（ふふ

**\* 出発\* (前書き)**

私の友達がかいてほしいらしく書きましたw  
超超初心者ですが読んでくれたらうれしいなあ  
(\*, , \*)

**\* 出発 \***

? プロフィール?

名前 かわしまあい  
川嶋愛

性別 女

性格 優柔不断

特技 走ること

ピアノをひくこと (音楽系はなんでもOK)

趣味 日記を書くこと

好きな人 さとうかいち  
佐藤嘉一

今日高校生になります。。。。

4月13日 快晴

(カキカキ

「よし!!!!できた」

キラキラにでこったファイル。

それにルーズリーフを1枚はさめる。

「よーっし、完璧だな！！」「愛日記」の完成だ」

そついいながら、高校に行く準備をする。

「あ！！！！書き忘れ！！！！」

さつき書いたルーズリーフを取り出し

高校名 熊乃高校くまのこうこう

と書き加えた。

「ふうー。あぶねあぶね！」

ファイルを机の引き出しに入れ、新しい制服に着替える。

準備が整い、玄関へと急ぐ。

「行つてきまーす！！！！」

元気よく家に声をひびかせ、家を出る。

自転車に足をかけ、高校へととばす。

「今日はなにがおこるかなあゝ??」

声をはずませて高校に向かう。

彼女の名前は川嶋愛。

今日、高校生になる。

\* 変な人 \*

がちャッ

こいできた自転車を自転車置き場に止める。

熊乃高校の前には大きい坂があり、その坂の下に自転車置き場がある。

とゆうことで、あたしは今坂を歩いてる途中。

季節は春。

坂の両端には桜の木がすきまなくずらりと立っている。

だから、今あたしが歩いている道は散った桜の花びらで真っピンク。

ピンクの道を歩いているのと同じ。

「はあゝ どきどきするなあ」

あこがれの高校生活。

充実した3年間になりそうだなあ。

気持ちをはずませていた。そのとき!!

ガッッ

「ったあああ！！！！」

後頭部になにかが思いつきりぶつかった。

「なにに！！！！？」

半キレで後をふりむく。

そこにはスクールバックが落ちていた。

すると、笑顔で手をふっている男の人がこっちに向かって歩いてきているのが見えた。

誰！？

その人はあたしの前に立ち止った。

「誰？？あ！新生かあゝ」

何この人……。知り合いだっけ？？

歳は……。あたしの1、2こ上かな？

それにしても、

あまりにもなれなれしい！！！！

人の頭にスクバぶつけたくせに……。



あやまりもしないなんて!!

「ごめんねー、君ちっちゃすぎて見えなかった（笑）」

あ。警戒しなくて大丈夫だよー。俺も新生だし 名前は？」

同年！？

そう見えないんですけど……。

つか、ちっちゃすぎて……。

失礼なッ。

「えーっと、、愛。川嶋愛っていうの」

「へえー。俺の名前は川田<sup>かわたゆうき</sup>優希っていうもんですー。

優希って読んでね。愛って呼ぶから。

どうぞよろしく」

「あ……うん。よろしく……」

って!!!

チヨイ待て自分。

なに見ず知らずの人といきなり友達になっちゃってんの!?

共通点は新生ってことだけだし……。

「そおえばあー、時間今何時だ？」

え？

何時って・・・。

あ”あ”あ”ああああああ！！！！！！！！！！

「何！？」

「あと5分で入学式はじまっちゃう！」

「はあ！？走れ！！！」

今坂の中間にいる。

こっからダッシュは・・・なんとか間に合う！！はず。

あたしと優希は校門まで全力で走った。

なんか変な人と友達になっちゃったなあ・・・あたし。

サボリ

「ふいー」

やつとか屋上についた。

優希はあたしをかついで階段をダッシュしたのに

汗をかいてないみたい。

体力あるなー。

そう思っているなか優希が屋上の手すりに向かって走り出した。

「おーいー!!すっげえきれーだぞ!」

はいはいと言って優希の近くに言ったあたしも

息をのんだ。

「わぁー!!きれえー」

ここからは街すべてが見渡せた。

綺麗なこの街は緑豊かで

空気がとても澄んでいる。

「あー!!!!あれはっ」

「ん？どしたー」

いきなり大きい声をあげたあたしに優希が聞いてくる。

「あれ！あそこ見てっ！あの森！！」

森の方向に私は指をさす。

「どれどれ」

優希が手をおでこにあて見始めた。

「見える？あの屋根」

森の一番てっぺんほうにあたしは指をさした。

「おー。見える見える。なんだあれ？」

「あれはね、ツリーハウス！」

そう。あたしと大好きな人が一緒に作ったツリーハウス。

大好きな人とのたったひとつの思い出のツリーハウス。

「へー。お前が作ったのか？」

「そうだけど、あたしともう一人。佐藤嘉一って人も一緒に作ったの」

「佐藤嘉一い??」

優希が不思議そうに聞いてくる。

「うん！」

「どこの高校なの？」

優希が聞いてきた。

どう答えればいいのか。

「えー・・・つとね」

「なにになー？秘密なの??」

優希が怪しがってにやにや聞いてきた。

「あつ。うん、そう！秘密」

笑顔になって答えるあたし。

無理ないかな。あたし今ちゃんと笑えてるかな。

「お前の彼氏だったりして?！」

ドキッ

いっきに汗がでてる。

「あー・・・うん。そう・・・」

「ん？どしたー。さっきの威勢はどこいったんだー」

優希が聞いてくる。

なんでもない。そう答えたいのに。

なんでもなくない。

この話題になるといつつもこうなる。

うつむいてだまってしまう

あたしの悪い癖。

もう5年もたつのか・・・。あの日から。

暗くなっているあたしを察したのかな。

優希が大きい声で言った。

「おー！見ろよ！むこうになんかまた登るとこあんどー」

気をつかってくれたのかな？

見かけによらず優しい人なのかもしれない。

優希のいるところにははしごがあり、そこを登って

寝っ転がってる優希の隣に同じく寝っ転がる。

まっすぐ見上げると

綺麗な青空が広がっていた。

「うわー。きれー」

感動しているあたし。

「この街は、綺麗な街だな。落ちつく」

優希が小さくつぶやいた。

「？ 優希ってもしかして引っ越しかしてきたの？」

問いかけると優希は少し寂しそうな顔をした。

「まあな・・・」

この人もこんな顔をするんだ。

寂しそうで少し悲しそうな声。表情。

さっきまでの元気よさが嘘みたい。

前の街でなにかあったのかな？

この人にも悲しい過去があるのだろうか？

わたしみたいに。

もしかしたらあたしと優希は重なるのかもしれない。

どこかの歯車が・・・。

暗くなってしまった優希に明るいうちであたしが話しかける。

「見て！！この青い空！！なにがあっても空をみるとあたしは嫌なこと全部忘れられるんだー」

わざとらしくなかったかな。

気づかいつて難しい。

「そっか・・・」

優希が優しい笑顔で答えた。

かわいい顔をするんだなー。

といつても優希はたぶんイケメンだ。

背は180cm後半くらいかな。

くりくりの目に長いまつげ。

綺麗な茶色の髪の毛。

うすい唇。笑うとおひさまみたい。



世間でいうイケメン枠に

ヒットしている。

「綺麗な顔をして笑うんだね」

あたしが言くと優希は少し照れくさそうにして  
空を見上げた。

キンコーン カンコーン

「チャイムだ！入学式終わったんじゃない？」

「そっか。じゃ、行くか」

あたしたちは教室へと向かった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1723u/>

---

愛日記

2011年11月17日21時30分発行